

見樹院ニュース

O T E R A NEWS

第47号 2008年6月6日発行

浄土宗 見樹院
住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03(3812)3711

FAX 03(3815)7951

Eメール: kenjuin@nam-mind.jp

Http://www.nam-mind.jp

宗祖法然上人800年大遠忌に向けて

極楽へ続く道

見樹院建築計画への思い

法然上人の浄土宗を含め、鎌倉仏教の歴史的意義は、何と言

っても、それまで貴族や僧侶など限られた人々のためだった仏教を、民衆のものにしたことです。拝んでもらう宗教から、自ら念仏や題目を唱え、座禅を組む信仰へ変わったことです。そ

れは宗教の権威に支配されていた人々が、自分の生き方や未来を切り開く主体

になった、まさに宗教「改革」だったのです。未来に続く自分の生き方を、自分が選べるとい

う希望を得たのでした。私たちは、子孫のためによいのか。そのような未来を残したいのか。そしてそこに至るにはどのような一歩一歩を歩むべきなのか。

私たちの先祖は、過酷な歴史を乗り越え、様々な困難を克服して今日の発展に結び付けました。その恩恵を受けた私たちは同時に、多くの教訓を学びました。そして今、様々な課題を突きつけられています。

希望の光のその先に

正直、絶望的と思うことも少なくありません。そんな押し潰されそうな暗闇の中にも、否、その暗闇だからこそ発せられ、また気づくことのできる小さな光があります。法然上人が、末法と言われた平安末期に出会ったのが念仏であり、その先に極楽浄土があると信じたのです。

私は現代の闇である、戦争や人権侵害、環境破壊、高齢者問題、家庭やコミュニティの崩壊、等等、様々な問題と向き合いつつ、子孫に残したい未来を求めらる中で、たくさんの小さな光に出会うことができました。

それらは皆、覇権国家や大企業ではなく、地域で地道に、自分の手足で取り組んでいる活動

おせがき 施餓鬼会のご案内

年に一度、檀信徒が一堂に会し、無縁仏など、ふだん忘れられがちな仏さまも供養し、自分自身の餓鬼（むさぼり）の心をしずめ、長寿と健康を祈る法要です。みなさんでご参詣下さい。

6月29日(日)

11時～ 受付

11時半～ お話

からだ地球と未来を健康にする住宅

建築家 相根昭典さん

山地の人々や伝統工法の大工さんと連携し、化学物質を殆ど含まない国産材のみを使用する天然住宅事業の代表。アトピーや過敏症、シックハウス等にお悩みの方は必聴です。

12時半～ 施餓鬼法要

法要後墓参、檀信徒のつどい、会食

建築計画についてもお話ししますので

ぜひともお残り下さい。(2時半終了予定)

※折り返し、出欠(人数)、塔婆供養のご連絡をご返信下さい。

お塔婆は1本3000円で承っております。

です。隣人との信頼の先に平和が、勤勉の先に繁栄があることを確信できる生き方です。昔は当たり前だった生活の誇りであり、その背中を見て子どもたちは人間を学んだのです。

お金に支配されない生き方

石油が高騰し、あらゆるものが値上がりして大儲けしている人がいます。一方、ワーキングプアや自殺者の問題が示すように、賃金は低下し、福祉の後退や年金の不安が人々を苦しめます。格差の拡大は暴力的な支配関係の強化を進めます。

お金というのは、経済の流れを効率化し、限られた資源を有効に使うための道具だと言う人もいます。しかし現実には、貯めこんで支配するための武器になり、また、高く売るため、あるいは安く買うために、大量の資源がムダになります。

たくさんのモノに囲まれないが豊かさを実感できないのは、それらがさらなるモノ、つまりお金を必要とさせるからです。

車を持てば、ガソリンや車庫など維持費がかかり、電化製品が光熱費を引き上げ、買換えや廃棄にますますお金がかかります。世界中で、商品作物を作るようになった農民が、機械や農薬を買うために出稼ぎするのと似ています。そういう私も情けないことに、このキーボードをたたきながら、ビル・ゲイツの蟻地獄にはまっていたりします。

便利になっても楽にならず、ますますお金のために働かされ、振り回され、挙句、地球を壊し、あらゆる命を脅かし、絶望をもたらすのです。

百年後を見据えたチャレンジ

これから見樹院がめざすのは、そういう悪い輪廻から解脱することです。

一つのヒントとして、私たちは、本来、お金の頼らなくても生きていける資産をもっていたことです。ものを作り出し、身の回りのものを活用する技術や知識もそうですが、隣近所があれば警備会社に払うお金は要ら

なくなるという意味では、信頼も資産です。

お金に頼り、結局お金に支配される悪循環を脱し、本当に有益な、有形無形の社会資産を積み上げるのが、見樹院の役割であり、人々に支えられた寺や教会やモスクやってきたことです。

■ 建築に向け総代・世話人会開催

この度、新たに世話人として、名取亮さん、山崎良一さん、内田直人さんに加わっていただき、六月一日、総代・世話人会を開催いたしました。

宗教法人見樹院としての決算等の現状報告の後、建築家の相根昭典さんが代表する、非営利中間法人「天然住宅」から提案されたプランについて説明し、活発な意見交換がされました。

計画については引き続き検討し、六月二十九日の施餓鬼会の折に詳しくお話しさせていただく予定です。

■ 日帰りバス参拝ご報告

昨年十月十六日、十五名の参加により、浄土宗関東十八檀林

法然上人の八百年を迎えるにあたり、百年後を見据え、確実に極楽浄土へ向かい、単なる癒しではなく、永遠の救いにつながる、持続可能な寺にするために、様々なチャレンジをしていきます。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

の一つ、吞龍（どんりゅう）さんで有名な蓮馨寺と、徳川家康縁の喜多院を参拝し、小京都川越を満喫しました。蓮馨寺では久米原恒久住職が、これからのお寺のあるべき姿について熱く語って下さいました。



蓮馨寺本堂前